

翔通信 no5

平成 29 年 8 月 1 日
泉第 2 チェリーこども園

全国各地で豪雨被害が多数報告されております。天災には抗えないことは震災を経験している私たちは誰よりわかっているつもりですが、豪雨災害に遭われた各地の被害が少なくあってほしいと思わずにはられません。宮城県や、ここ仙台でも同様の災害が起こらないとは限りませんので、夏場は特に注意が必要です。

さて、先日の夏祭りでは全国的な天候の不安定さとは裏腹に、夏らしい日差しと暑さの中実施することができ、子どもたちは“夏のお祭り”を十分に体感することができたのではないのでしょうか。昨年度から取り入れている“夏祭りらしい”出店の数々も大変好評をいただいております、今年度も列を作ってお買い求めいただく姿が多数みられ、“親子で”夏祭りを楽しんでいただけたのではないのでしょうか。おみこし、盆踊り、誇雀会の雀踊りなども祭りを一層盛り上げてくれてとても素晴らしい夏祭りとする事が出来ました。

開催にあたってはたくさんのご協力をいただき誠にありがとうございました。今後も園運営にご理解とご協力くださいますようお願い申し上げます。

フェイスブックページ再開！

一時停止しておりましたフェイスブックページですが、この度ようやく再開することが出来ました！

改めて園の様子、教育や保育に関する情報、子育てに関することなどを発信していきたいと思っておりますので、ぜひ目を通していただければと思います。

<https://www.facebook.com/izumidai2cherry/>

月ごとの予定表

昨年度から偶数月の翔通信発行に合わせて 2 か月分の予定表を掲載させていただいておりますが、今後予定表はホームページ“お知らせ”欄に記載させていただきます。スマートフォンにも対応しておりますのでご活用ください。また、配布はいたしませんのでホームページでの確認が困難な方は掲示をご確認ください。

つる組の野外活動が始まります！

昨年度まで 8 月に実施していたお泊り保育に代わり、今年度はオーエンス泉岳自然ふれあい館を利用させていただき、野外活動を実施します！初の試みに実施する職員、特に園長が興奮とワクワクを感じております。都市部に位置する当園の園児は日常的に自然環境に触れているわけではないので、非常に新鮮で貴重な経験になることを期待しております。裏面（次ページ）に職員の“指導者研修の体験レポート”をのせておりますのでご一読ください！

野外活動指導者研修体験レポート！



副園長
中嶋真理子先生

沢遊びでは、不安定な沢の中でバランスを崩しそうになり正直大変でしたが、沢の生き物を探す活動ではまるで宝探しのような気分になりとても楽しかったです。
子どもたちも大喜び間違いなし！家族でのお出かけにもおすすめですよ♡



つる組担任
佐藤駿先生

沢遊び体験では、山の中で澄んだ水の中に入りとても気持ちよかったです！沢遊びスポットでは石の裏に隠れた小魚やサンショウウオも発見できて大人でも興奮してしまうほど！
キャンプファイヤーは実際の火は見いていませんが、木組みを見ただけでもその迫力にドキドキ！星空の下でどんなキャンプファイヤーができるのかとても楽しみです！

新教育要領が平成30年度から実施、適応されます！



幼稚園、保育園、こども園で行われる保育はそれぞれ教育要領、あるいは指針に基づいて実施されています。それらが改定の時期に差し掛かり、今回の改定版は平成30年度から導入されます。

保育の考え方、方向性を現状の課題と照らし合わせ改定されるのですが、この度の改定の肝の一つが左記の「小学校との接続」就学までに育ててほしい「10の姿」としてあります。「10の姿」は到達目標ではないとしていますが、就学前、就学後のギャップを少なくし、就学後の教育から逆算した“幼児教育”という意味合いを強く感じます。言い方を変えればこれまでは就学時に小学校教育を受けるだけの必要な育ちがなかったという見解が多かったのではないかと想像してしまいます。

どのような出発点であったにせよ、就学が子どもにとってスムーズであり、育ちと学びの連続性が確保されることは望ましいことです。

その連続性は決して就学の時から始まるものではなく、生まれた時から始まっています。その時期、その年齢に合った教育(幼児期は遊び)、子育てを次の育ちをイメージしながら行っていきたいですね。

みちしるべ

隣の奥さんと
楽しそうにお話ししたり

新聞を読んで笑ったり
テレビと一緒に歌ったり

部屋を片付けてお花を飾ったり
乗り物の中ではふだんのお母さんの

声が静かに話しかけたり
いつもそんな雰囲気

赤ちゃんはからだにしみこませながら
育っていきます

お母さんはいつもたのしく
前向きにやっていますよ。

お母さんの毎日の生活そのものが
赤ちゃんの道標です。

心に響く、そしてハッとさせられる詩をご紹介します。

巷野悟郎 著書

「赤ちゃんが書かせてくれた～小児科医からママへの手紙～」より